

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひ び あら 日々新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典「大学」

日新地区だより 45号



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：魅力あるまちづくり日新 広報部会
 福井市文京5丁目1-8日新公民館
 発行日：平成30年(2018年)3月3日

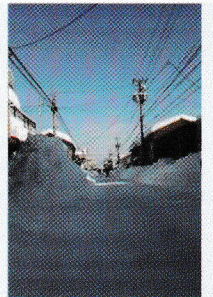
30豪雪

2月上旬に福井で37年ぶりの記録的な雪

今年2月5日から降り続いた雪は2月8日について147cmを記録し戦後の38豪雪(積雪213cm)、56豪雪(積雪196cm)以来3番目の積雪となりました。この雪の影響は、福井市民の生活の足である国道8号線の長時間の渋滞(1500台の渋滞、最大63時間)であった。生活道路も圧雪のため除雪が間に合わない。スーパーマーケット・コンビニエンスストアの品不足、学校など福井県内の小・中学校、高校、大学が休校となり、福井市内の私立高校の



入試(2月6日→2月16日)、福井大学の一部の2次入試(2月7日→16日)も延期となった。交通機関はJR北陸線、越美北線、私鉄のえちぜん鉄道、福鉄、路線バス、コミュニティバス、が運休となる。路線バスは圧雪や段差で道路状態が悪く通行できる幅が狭いことから、前線復旧時期は約3週間かかる見込みであるとのことである。地域での地震や風水害時の防災の準備や予行が行われているが、雪害についても改めてシミュレーションする必要がありそうである。



一方、2月16日には東村市長自身の声による広報車のアナウンス「17・18日の不要不急の外出は控えて除雪に協力を・・・」が流れ、一斉除雪が行われ、日頃疎遠である隣近所の人々の交流が生まれた利点もあった。



生活道路とは、その地域の住民らが自宅から大通りなどの主要道路に出るまでに使う道であが、多くは幅が狭く、車の対面通行がやっとであるか一方通行であるなど、頻りに自動車が通ることを前提としていない道路(児童の通学路として使用される)である。

吉報 2月22日からはJR越美北線、福井市内の路線バスが全線復旧
 2月22日からわが町の「さんさんバス」も運行を再開

日新春秋

日新地区は児童と共に

日新小学校 校長 横田 充宏

2月上旬、37年ぶりの大雪で、降り止まない雪を恨めしく思いながら、連日の除雪作業に追われたのではないのでしょうか。56豪雪の時、私は成人式を迎える年でしたが、2メートルに迫る大雪で、3月に延期されたことを思い出します。休校が続き、2月12日には授業再開に向けた一斉除雪を行いました。連日の除雪で大変な状況にもかかわらず、大勢の保護者の皆様のご協力をいただき、短時間で学校周辺の除雪が完了しました。改めて日新地区の皆様のパワーを感じることができ、感謝の気持ちで一杯でした。本年も、日新地区の皆様には、本校児童の健やかな成長に、多大なご支援ご協力をいただきました。2年生の「日新地区のひみつを探れ」をはじめ、6年生の「お花やお茶の伝統文化体験」など、各学年が皆様の温かいご指導のもと、豊かな体験活動をさせていただきました。5年生は、底喰川の環境美化に関するお話も聞くことができました。しかし、子どもたちへの「地域の行事に参加していますか」というアンケートでは当てはまると回答した児童は約30%と県平均を大幅に下回っています。



自分が住んでいる日新地区に愛着を持ち、地域の方々と一緒に「笑顔さんさん 輝く日新」の実現に向け、主体的に活動できる子になって欲しいと願っています。最後になりましたが、日新地区の皆様には、本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。来年度も何卒よろしく願いいたします。



日新地区では公民館と連携しながら、まちづくり独自の組織が構成されています。まちづくりの中心になって事業を推進してくれる人、これに賛同して協力してくれる人、そして、各自治会長の全員によって活動は展開されています。

事務局は対外折衝と部会の予算等調整役や研修旅行と平成 29 年度は「ミソハギ花まつり」を企画しました。環境部会は底喰川周辺をきれいにする取り組みで、年 3 回の地域住民による一斉清掃と月 1 回の定例清掃や、藤島中学校・福井商業高校の生徒による清掃ボランティアによって、河川敷にミソハギが咲きほこる日新地区をアピールしています。交通部会は「さんさんバス」の定着を図るために、そして、平成 29 年度は第 2 回基準査定年度に当たるため、一人でも多くの方に利用してもらおうと、日帰り温泉・カラオケ大会・映画会・食事会にも力を入れて、参加する人のつながりも深めることが出来ました。広報部会は「ゆめにしん」を年 4 回発行して、イベント・団体活動・ホットなニュースなどを写真入りカラー版で地域住民にお知らせしています。

人の価値観が多様化する中で、まちづくりに参加することは、心の豊かさや生きがいを持てたり人々との交流が出来る場所でもあります。どうか一人でも多くの方が参加してくれることを願っています。

底喰川探訪 ①

中西 正士

昨年の7月30日底喰川高水路に咲くミソハギ(盆花)を見る祭りが各地の協力で開催されました。

20数年前の底喰川

ここで過去20数年前にさかのぼると、底喰川は家庭で不必要になった全ての小物から粗大ゴミまでが川底に多量に沈んでいる状態であり、鳥類、魚類等の生活環境としては劣悪であり棲息する生物も非常に少なく限定的でありました。20 年数前に河川改修が行われ、高水路という普通の水位より約30~50cm 位の高さ、幅1~2 mのものが設けられた(構成は山土、礫など)この所に県が種々の植物の調査の看板を立てられたが全く調査した様子、報告もなく雑草が帯状にはびこり、水の流れの邪魔になる状態が続きました。



底喰川クワリーン大作戦始まる
(平成 10)

底喰川高水位にミソハギ植栽のはじまり

そこで折角改修されたので何とか出来ないかと当時の西館長、山村、高橋両主事と相談し市のまちづくりは、日新地区は底喰川を中心とした地域環境作りが重点目標であったことで高水路に適する植物を植栽することになり、植物を探すため武生安養寺まで取りに行き植栽したものの満足できるものではありませんでした。そこで福井東部岡保地区埋立て地の崖の所に10数株のみそはぎがあり地域の人にお願ひして直径が20cmくらいの株を3株貰い下流に植え結果は良好で株分けをしました。水没にも耐える力があり毎年株分けを行い現在は約500mの花の帯ができた次第です。

現在に

現在、これだけの多くのみそはぎは嶺北一円で自慢できるのではないかと思います。また、水中には改修後5~6年後にアユの遡上も見られたものの上流の改修工事で再び泥の沈殿で2~3 年で遡上しなくなりました。また、水中にササバモが異常に繁り魚類の数も少なくなった1つの原因であると考えられます。

これから

今後も継続して、ミソハギの管理を行うには、環境部主催の月1回の決められた手入れだけでは、満足な花を見ることに期待できないと思われます。そのためには時間に余裕のある個人が状況判断し積極的に除草、増水後のゴミの除去等のボランティアが必要です。

「参考」

昨年はシーズン中で約60回(個人)1回当たり1~2時間の管理。また、実施時間帯は住宅の中を流れている関係で早朝すると草刈機の騒音で迷惑を考える必要あり、夏場は暑くなってから作業にとりかかることになり少々困る



平成十年

町の文化人

東京からの便り 坪田 直也

日新地区のハッ島に生まれ、高校卒業までは福井にいました。大学時代から東京で、仲間たちと「キャプテン・チンパンジー」という小さな劇団を作ってお芝居をしています。



長年多くのお芝居に携わってききましたが、今、自分が手掛けている公演は少し変わっています。関東には劇場が数多くありますが、劇場を使わず、電車の中で公演をしています。東京に都営荒川線という路面電車が走っています。いわゆるちんちん電車と呼ばれる一両編成の小さな電車で、座席は22人分しかありません。その電車を借り切って、毎月のように公演をしています。電車の中の公演には大きな二つのメリットがあります。演目は、必ず電車の中のお話なので、これ以上リアルなセットはありません。実際に電車は走っているので臨場感もたっぷりです。そして観客との距離の近さです。劇場ではステージと客席が区別されていますが、電車での公演では区別がないので、これほど役者を近くで感じるお芝居はあまりないと思います。もちろんデメリット



もあります。走行音がうるさかったり、音響、照明が使えなかったり採算が取れなかったりなどなどです。いろいろと難しい公演ですが、新しいお芝居の形として、新しい文化として、続けていけないかと今試行錯誤しているところです。

福井しあわせ元気国体

福井市 国体推進部 国体企画室

いよいよ、今秋「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会が開催されます。本市では、国体で14競技16種目、障スポで4競技を開催します。



今大会では、国体会期中に障スポ競技の車いすバスケットボールを開催するなど、全国初の取組となる「国体と障スポの融合」を推進しています。

全国から選手、監督等の関係者のほか、観戦者など大勢の方々が訪れますことから、競技会の運営や参加者の輸送など万全の体制を整えるとともに、再び福井市を訪れたいと思っていただけるよう「つつるいっばいのおもてなし」でお迎えしたいと思います。

そのためには、市民の皆様のご協力が不可欠であり、花いっぱい運動、ボランティア、クリーンアップ、観戦応援などの一市民一参加にご参加いただき、一緒に盛り上げ、すべての人々の記憶に残る大会にしていきたいと思います。

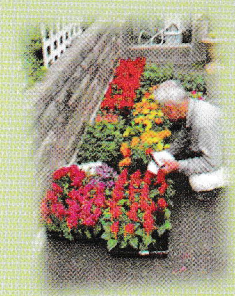


環境部会

平成29年度の振り返って

環境部会長 高橋 定信

今年度より、環境部会の活動は底喰川の美化活動1本に絞ることにしました。わが地区内の川中と両岸の清掃・整備を中心におこないました。コミュニティー道路の植え込みの花植え入れかえ・管理・ゴミ拾い・除草・草刈りなどでした。特に、川中と高水位のゴミ拾いは実施した2~3日後にはまたゴミが散乱し、元に戻っている状態でした。しかし、地区の皆の協力のお陰で活動を続けることができました。ただ、今年は通年で困ったことは雨・台風・寒波・降雪などにより事業を行っていくことが、いつになく困難でありました。

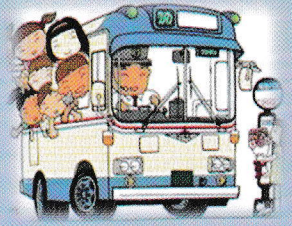


しかし、念願であった「日新みそはぎ花まつり」をまちづくり全体の事業として行うことができましたことは大変喜ばしいことでした。今後は「古きを守って、新しく進化し、マンネリ化の防止」を図っていききたいと思います。



日新地区のまちづくり交通部会では、現在さんさんバスの本格運行を目指し各事業が積極的に行われています。特に高齢者の活動は盛況で、以前に比べると“元気な高齢者この日新にありき”の感であります。さんさんバスの運行をきっかけに生き生き人生を謳歌しておられます。

その内容は、まず佐野温泉「福の湯」行きから始まり、食事会、カラオケ会、それから懐かしの映画鑑賞会と盛りだくさんで、参加者同士のコミュニケーションを拡大しております。また、スポット企画として中学校、小学校、花園幼稚園やひまわり児童館、児童クラブの事業にさんさんバスを利用させていただいております。これらの各事業にはサポーターがしっかり見守り、支援されている行動は大変ありがたく、まちづくりを形成する上で大切な力です。おかげ様で、一般乗客も徐々に増え、バスに対する認識度向上につながって来ました。



以上のような現状をふまえ、まずはここ一番、福井市の第二次査定期間(今年3月迄)を無事クリアしなければ運行の継続はなりません。一人でも多くの乗車をお願いいたします。

2025年超高齢社会問題、人生100年時代をどう生きるか？我々に課せられた解決策の一つとして、このさんさんバス事業に寄り添いたいと自分自身の姿を重ねて考えるこの頃です。この事業が発展していくために、今後の重要課題として次世代につなげるための創意工夫が肝要と思われまます。そして、子供から大人まで親しみ喜ばれるさんさんバス、市街地を走る唯一の「日新の顔」となりますようお願いしております。みなさまのご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

平成29年度の広報部会は慌ただしい中で始まりました。新部長(私)が決まったのが3月末日でありました。今まで公民館の行事にはほとんど参加したことのないというか、まるで受け身であった私であります。右も左もわからないまま始まってしまいました。

4月22日に部員が集まりました。広報部会は、昨年まで年間4回の「ゆめ・にっしん」の発行と一つのイベント(講演会)を行ってきたとのことです。ノルマというわけではありませんが最低でも、10年以上の間先輩たちが続けてきた「ゆめ・にっしん」の発行を絶やすわけにはいきません。しかし、「年間4回の発行は荷が重いなあ〜」と思っていた時、長年広報部に所属しておられる副部長が「好きなようにやっていいのよ」との言葉をかけていただいた一言で荷が下りました。



平成29年度も終盤を迎え、なんとか、「ゆめ・にっしん」は6月、9月(みそはぎ花まつりなどの特別号)、12月、そして今回の3月(発行予定)に発行することができそうです。また、8月には51名の参加で「落語教室」(鳴尾健氏)も開催出来ました。

このように1年間無事に終われそうです。

これも一重に地域の皆様をはじめ公民館関係の方々、広報部員の協力のお陰であります。

有難うございました。今後ともよろしくお願ひします。

